

平成28年度 山形県立農林大学校評価書

【運営方針3】研修カリキュラムの充実

【基本方向】関係機関・団体と協力した新規就農者や6次産業化による経営発展を目指す農業者等、多様なニーズに対応できる研修体制づくり		【評価基準】 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分			
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
(1) 農業理解の促進から新規就農者の定着まで幅広いニーズに対応した研修の実施	研修参加率:80%	① 段階に応じた研修の実施（継続） 就農を志す人を対象に、段階（動機づけ～準備～就農～経営発展）に応じた研修を実施する。	・動機づけ段階の研修として、親子の農業教室（小学生）、農林業体験キャンプ（中学生）、オープンキャンパス（高校生）、園芸教室（一般県民）を実施した。また、最上地域の中学校から職場体験の受入れ依頼があり、積極的に受入れた。 ・就農準備段階の研修として、新規就農支援研修（新規就農希望者を対象にした1年間の研修）、働きながら学ぶ農業入門講座（他産業に従事しながら就農準備をする人向けの研修）を実施した。 ・就農定着段階の研修として、農業経営力養成基礎講座（先進法人経営者による講義と経営計画作成演習）、農業経営力レベルアップ講座（パソコンによる複式簿記）を実施した。 ・経営発展段階の研修として、2月に農業経営革新支援講座を開催した。	B (新規就農支援研修働きながら学ぶ農業入門講座、農業経営力養成基礎講座、農業経営力レベルアップ講座の参加率 92%)	・動機づけ段階の研修の実施により、受講した小中学生や一般県民の農林業に対する理解を深めることができた。また、オープンキャンパスでは、参加者が志望学科の学習内容等を直接確認した上で、本校に入校している。 ・中学生の職場体験では、各学科における体験学習をととして、農林大学校や農林業への理解を深めてもらっている。次年度も積極的に受け入れていく。 ・新規就農支援研修受講者は、ほとんどが就農予定者であり、その後の就農定着をフォローしていく必要がある。働きながら学ぶ農業入門講座は夜間の講座であるが、農繁期になると参加率が低下してしまう。 ・就農定着段階の研修受講者については、就農定着が図られるよう、各種研修の案内や農業技術普及課と連携する等、フォローアップを行っていく。 ・次年度、本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた経営体を対象に「やまがた農業経営塾（仮称）」を創設する。
		② 林業就業者等を対象とした研修の実施（新規） 今年度から林業に関する研修を実施し、多様な担い手を対象とした新たな研修を実施する。	・森林関係を選択科目としている高校の生徒及び新たに林業への従事や林業経営に取り組みとする森林所有者等を対象とした基本的な森林・林業に関する知識・技術研修を実施した。		・研修実施をとおして、高校生の森林や林業への関心が高まった。また、林業従事者の安全作業に対する認識が高まった。 ・研修では、初心者者が刈り払い機やチェーンソーを取り扱うことから、次年度、一層のリスクマネジメントに努めながら実施する。
(2) 6次産業化や新分野導入等、農業者の経営力向上に向けた研修の充実	研修参加率:80%	① 6次産業化や新分野導入等への支援（継続） 6次産業導入等を目指す農業者に対しては、「農業ビジネス支援研修」により農産加工の基礎からスキルアップにつながる講座を実施する。	・新たに農産加工を目指す農業者を対象にした農産加工基礎コース、新分野（新品目・直売等）の導入を目指す農業者を対象にした新分野導入コース、加工技術の向上を目指す農業者を対象にした農産加工スキルアップ講座を実施した。 ・農産加工スキルアップ講座については、定員20名の募集計画に対して申込者が上回ったため、29名の受講生を受け入れた。	A (農業ビジネス支援研修参加率 100% アグリウーマン塾参加率 84%)	・新たに農産加工に取り組む受講生については、加工施設や機械の導入、保健所の許可等、様々な課題があるため、各総合支庁農業技術普及課・農業振興課・保健所等と連携して支援していく必要がある。
		② 女性農業者の育成支援（新規） 今年度から「アグリウーマン塾」を開講し、事業展開を目指す女性農業者を支援する。	・「アグリウーマン塾」は、全5回の研修を通して新たな事業展開や経営発展のためのビジネスプラン作成に取り組んだ。		・受講生同士の対話を重視したグループ演習や、個々の経営状況に応じた個別相談等の実施等により、主体的・実践的な研修内容となっている。 ・女性農業者の研修は、類似する他の研修と比較して時間が制約されるため、次年度に向けては、研修がより効果的に行われるよう、要望等を把握しながら研修内容を検討する必要がある。

<p><b>自己評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農段階に応じた研修は例年どおり実施し、参加者の農林業に対する理解を深めることができた。新規就農支援研修受講者には、就農定着が図られるよう、関係機関・団体と連携し、フォローアップを行っていく。</li> <li>・今年度新たに林業就業者、6次産業化・新分野導入志望者、女性農業者を対象にした研修を実施したところ、受講者の参加率が高く、好評だった。今後は、各受講者の要望等を把握し、次年度の改善に生かしていく。</li> </ul>	<p><b>評価</b></p> <p style="text-align: center;">B</p>
--	---

<p><b>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長段階に応じた体験学習の実施は、就農時に感じるギャップが少なくなり、就農定着につながるので、効果の高い研修である。今後とも小学生の農業体験や中学生の職場体験の受入れには積極的に取り組みたい。また、高校生対象の出前講座等やオープンキャンパスには、高校3年生だけでなく、1～2年生も受け入れており、そこで、農林業体験や農大生の卒論プロジェクト視察を通して、当校の学習内容を直接見聞して農林業への理解を深め、志望学科を決定し、入校してもらいたいと考えている。</li> <li>・自らの体験として、様々な研修に参加して多くの農業経営者と接すると、「視点」の違いを感じる。学生や研修生にも、色々な「視点」を持つことを指導してほしい。→優良事例研修を通じて先進的農家等から学ぶようにしているが、今後は他品目・分野とも接し、より多面的な視点を得られるよう研修を充実していく。</li> <li>・新規就農者には、様々な支援が必要である。相談するシステムとして、新規就農者や研修生どうしがSNS等を使ったネットワークづくりは有効である。→新規就農者は、様々な悩みや課題を抱えており、同じような経験を持つ農業者からの助言は大切である。この点、SNS利用による相談は、迅速で有効な手段であり、今年度の「アグリウーマン塾」では受講生の了承を得て、ネットワークづくりを行った。このようなネットワーク化は研修生のフォローアップにもつながるので、システムづくりを検討したい。</li> </ul>	<p><b>評価</b></p> <p style="text-align: center;">B</p>
--	---